

不満が残らない けんかの収め方

A君とB君のけんかをうまく収めたつもりが、保護者からクレームがきてしまったの～。

対応の仕方や最後の詰めが甘かったのかもしれないね。ちょっとふりかえてみよう！



はじまりは…

休み時間のことである。

職員室にいた新米先生をクラスの女の子が呼びにきた。

「先生、A君とB君が……！」

教室に戻ると、A君とB君がつかみ合いのけんかをしている。新米先生は間に入ってけんかを止め、それぞれに事情を聞いた。

A君「B君が何にもしてないのに叩いた」

B君「A君が悪口を言った」

二人の話がかみ合わず、授業もあるので、その場はやめて、また後で話を聞くと、さらに話がずれてきた。

仕方ないので両方に、謝って仲直りをするように指導し、無事解決したと思っていた…。

しかし、A君の保護者から電話がきた。

「先生、うちの子は悪くないのに、先生がちゃんと話を聞いてくれなかったと言って泣いて帰ってきたんですよ。B君に蹴られて顔に青あざまであるのに……ちゃんと指導してください」

新米先生の対応のどこがいけなかったのでしょうか？

けんかが起こったら…

(1) 当事者から事情を聞く

けんかが起こったら、まず当事者から話を聞くこと。必ず両方の話を聞くことが大切です。

す。興奮している場合は、落ち着いてから話を聞きます。その際に子どもをしっかり観察し、ケガをしていないかを確認します。

また、一方が話している間は、「あとで君の話も聞くから」と相手が途中で口を挟まないようにさせます。

(2) 聞くのは一度だけ

話を聞くのは一度だけです。長く聞けば聞くほど、こじれてトラブルになる可能性が大きいからです。けんかをした二人は、どちらも自分は正しく、相手は悪いと思っています。自分の正当性を主張し、相手の非を責める話をします。こうした話を延々と聞いていては、話はこじれるばかりです。

だから、話を聞くのは一度だけ。しかし、自分の思いをきちんと話させることが大事です。気持ちを聞いてもらって、すっきりして素直に謝れる場合も多いのです。

(3) よくわからない時は質問する

ポイントだけを聞くことも大事です。例えば、「発端は何か?」「どちらが先に手を出したか?」などのポイントだけを聞きます。余計なことを言う子もいますが、ポイントにしないとなかなか解決できません。

(4) 見ていた子どもにも確認する

当事者の二人がうまく説明できない時には、まわりで見ていた子に確かめることもありま。一部始終を見ていた子に事情を説明させ

それいけ!

新米先生

ると、当事者はすぐ口を挟もうとしますが、黙らせません。ただし、あくまで部外者の場合がありますから、見極めは大事です。

また、男子のトラブルは女子に聞く、女子のトラブルは男子に聞くと解決しやすいとも言われています。

けんか後の裁定は…

(1) けんか両成敗

しっかりと話を聞いたうえで裁定します。昔から行われている「けんか両成敗」です。

もちろんこれは、互いに同じくらい悪い時の対応です。先に手を出した子にはきちんと謝らせなければいけません。日常の学級経営で「暴力はいけない」という指導がなされていれば、子どもは「ごめんなさい」と素直に謝ることができます。

(2) 片方だけ悪いとしない

やんちゃな男の子が女の子を泣かせた時も、もちろん男の子を女の子に謝らせたうえで「けんか両成敗」にします。男の子が悪い場合でも、男の子を謝らせただけで、男の子が別の時にその女の子をさらに強くいじめることがあるからです。

教師が正義の味方で、一方の子どもだけを裁くと心に「わだかまり」が残り、別の場面でまた繰り返すことがあります。「けんか両成敗」の場合はあまり「わだかまり」が残り

ません。やられた子が後々やられないように、「わだかまり」をなくすることも重要なのです。



保護者への対応

(1) 早めが肝心!

実はこれが一番重要なのです。子どもは自分から親に話をする時に、自分

視点の話しかしません。また、都合の悪い話はなかなか伝えられない場合がほとんどです。もし、自分の子どもが顔や体に青あざなどをつくって帰ってきたらどう思いますか。「○君に蹴られた」と、子どもが言ったら、その蹴った子に対して、蹴った子の親に対して、また学校に対してどのような感情を抱くでしょうか。

早めに保護者に連絡することが、トラブルを回避する秘訣なのです。どんなに忙しくてもその日のうちに連絡するといいでしよう。

また、詳しく事情を説明するには、連絡帳よりも口頭で伝える方が適しています。連絡帳に書いた文章は、時に誤解を招くことがありますから、電話で事情を説明するほうがいいでしょう。

(2) 謝罪し、今後の対応を説明する

子どもたちのけんかですが、やはり教師の責任ですから、素直に謝罪すべきです。

「今後はこのようなことがないように○○○について指導していきます」と今後の対応を具体的に述べて、頭を下げましょう。

早めの連絡と誠実で謙虚な態度は、保護者に安心を与え、逆に信頼していただける場合が多いです。

新米先生はトラブルが起こると、つい焦ってしまいますが、逆に子どもや保護者との絆を深めるチャンスだと思い、丁寧に対処していきましょう。